

# 自然会話教材開発研究における素材データの収集について

磯野 英治

## 1. はじめに

自然会話教材開発研究部会では、自然会話の教材開発研究における活動の一環として、自然会話教材の素材となるデータの収集活動を行った。筆者が収集に関わったのは、主に観光場面である。本稿では、その自然会話データ収集活動におけるデータ収集にあたっての準備事項（準備する機材や撮影場所の選定、必要な書類の整備について）、自然会話データ収集時の留意事項（カメラ撮影時の準備や注意点、方法について）、データ収集後の編集作業で得られたことを中心にまとめる。

## 2. 自然会話データ収集にあたっての準備事項

自然会話データを収集する前に準備しておくこととして、機材類の用意、撮影場所の選定、データ使用に関する同意書やデータ収集の目的を説明したカバーレターの用意などがある。これらについて準備の過程や留意事項を述べる。

### 2.1. 撮影機材の用意について

自然会話データの収集活動にあたっては、主にビデオカメラで場面を撮影してデータの収集を行った。この際用意した機材はDVDビデオカメラ、ビデオカメラ用集音マイク、ICレコーダーである。集音マイク、ICレコーダーに関しては、屋外での撮影だったためビデオカメラの内臓マイクでは音声を得られにくいであろうという考慮から、より鮮明な音声を得るために使用した。これらの録画・録音機材は、十分に充電されているか、電池の残量は十分であるかを確認して、ビデオカメラは予め撮影画像の調整や音声がどの程度は入るのかをチェックした上で、数分間試し撮りをしてから本番の撮影に臨むと良いであろう。

本活動では、データ収集時にミニディスクを利用するDVDビデオカメラを使用した。しかし、このタイプのDVDビデオカメラやビデオテープカメラで撮影すると、データをパソコンで編集するためには、記憶媒体をパソコンに取り込む工程で電子化するなど、ある一定の手順を踏まなければならない。そのため、ビデオカメラでの撮影において、研究や分析のために後に編集を要するような場合は、ハードディスク内臓型のビデオカメラを推奨する。これは撮影したデータをパソコンに取り込む時に、USBケーブルをビデオカメラとパソコンに接続するだけでデータの転送を行うことができるので、作業の効率化につながるだろう。

### 2.2. 撮影場所の選定について

撮影場所を選定する際には、どのようなデータを教材開発のために収集するべきかといった観点を事前に把握して選定すべきであろう。本活動においては自然会話教材として、初対面場面の他に観光場면을扱うことを検討していたので、以下では、観光場面の撮影について述べる。観光場면을撮影する場所の選定や撮影ポイントの検討には、観光案内の地

図などを事前に取り寄せて、撮影時間の予想や地理状況の確認に利用した。

### 2.3. 同意書の準備について

自然会話データは、被験者（被撮影者）から、研究のために使用することを同意（許諾）してもらうことが必要である。そのため、研究の目的を知らせ、理解を得た上でデータの収集を行う。その準備として、撮影の目的と研究への活用、同意書への記入について説明を記したカバーレターと、同意書を準備した（付録 1、2 を参考のこと）。

## 3. 自然会話データ収集時の留意事項

実際のデータ収集では、ビデオカメラといった機材を使用する活動となるため、撮影前の事前準備やチェックに細心の注意を払う必要がある。観光場面の撮影での留意事項は以下の通りである。

### 3.1. カメラ撮影時の準備や注意点

ビデオカメラでの撮影ということ considering、撮影者が撮影しやすいように予め撮影コースを下見して、地理的特徴の把握に努めた。これは撮影場所によっては足場が悪いなど実際に現地を訪問しなければ分からないこともあるため、必要な作業のひとつであろう。また上記に挙げたように、データ収集前に被験者への説明を行ったり同意書への記入を依頼したりして、撮影やそのデータ使用に関して被験者の同意を得ておく必要がある。

### 3.2. カメラ撮影時の方法

実際の撮影では、屋外の観光地での撮影という条件だったので、雑音、騒音の影響を考えてビデオカメラ専用の集音マイクを使用して、カメラに写らない程度に集音マイクを被験者に向けてようにした。さらに、被験者には IC レコーダーを撮影時に身につけてもらうなど、より良い状態の音声の獲得に努めた。

撮影のポイントとしては、観光場面の教材化という目的があったため、撮影者は出演者だけを撮影するのではなく、コンテキストが分かりやすいように周りの景色や被験者の視線や動作を意識して撮影を行った。

## 4. 自然会話データ収集後の動画編集作業

以上の自然会話データ収集活動で得られたデータは、パソコンの中へ取り込み、編集作業が行いやすい形に変換した。本データ収集活動では DVD ビデオカメラ、IC レコーダーを使用していたため、編集作業に先立って、これらに保存されたデータをパソコンに取り込むためのソフト（DVD はビデオカメラの付属ソフトである ImageMixer、IC レコーダーは Digital voice editor）をそれぞれ使用してパソコンへのデータ取り込み作業を行った。こうしてパソコンへ取り込まれた電子ファイルデータは、原データがそのまま電子化されているため容量が大きい可能性があるため、パソコン内での編集作業が行いやすいように、必要に応じて拡張子を変換したり、圧縮したりした。またこうして加工された電子ファイルデータは、変換しても、もともと容量の大きい音声・画像・動画資料であるという性質を持つため、パソコン本体を圧迫しないように、容量の大きい外付けハードディスクに保存

した。

実際のデータ編集作業では、電子化されたファイルの中から教材として活用できる部分を抽出して、場面ごとに動画を切り分けていく作業を行った。この作業の過程で分かったことは、データをパソコンに取り込む際の電子化作業や、データ編集作業の過程でどのような加工をしても、素材となるデータ（本活動では DVD や IC レコーダーに収録されたデータのこと）が良くなければ、画像そのものの写りが悪かったり音声聞き取りにくかったりといった具合に、教材として活用できない可能性が高いデータになってしまうということである。この点については、前述した自然会話データ収集活動における綿密な事前準備やカメラ撮影時の留意事項の他に、カメラ撮影時の技術的な問題として、歩きながらの撮影から発生する画像の揺れの防止や、ビデオカメラの音声が悪くなかった場合の IC レコーダー収録音声の活用が挙げられるであろう。

## 5. 終わりに

本稿では、自然会話教材開発研究部会における活動の一環として行われた、自然会話教材の素材となるデータの収集活動について、データの収集から編集までの方法論を、実際の経験から得た視点に基づいてまとめた。今回のデータ収集活動では、研究の目的とデータ収集活動における全体的な流れの把握した上で、個々のデータ収集活動において詳細な計画を立て実行したため、円滑に活動を行うことができた。

これらの活動を不備なく行うことは、データを採集、分析し教材化するための基礎的研究のために不可欠である。また、研究の目的に応じてそれぞれが試行錯誤を繰り返しながら、目的に合った環境を整えていく必要があるであろう。

## 参考文献

- 宇佐美まゆみ（2005）『言語社会心理学的アプローチによる自然会話分析方法論ハンドブック』、東京外国語大学大学院地域文化研究科 21 世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」、CD-ROM 版、10-13 .
- 武田雅一、磯野英治（2006）「自然会話音声データの電子化について」『言語情報学研究報告13 自然会話分析への言語社会心理学的アプローチ』東京外国語大学大学院地域文化研究科21世紀COEプログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」、宇佐美まゆみ編、309-312 .

同意書記入のお願い

私たちは東京外国語大学大学院地域文化研究科宇佐美まゆみ研究室で研究をしている者です。私たちは対人コミュニケーション研究のために自然会話の資料を収集しています。今回録画させていただくデータを今後研究室の貴重な資料とさせていただき、研究に生かしていきたいと思えます。同意書の内容をご確認の上、ご協力をお願いいたします。

所属：東京外国語大学大学院地域文化研究科宇佐美まゆみ研究室

住所：東京都府中市朝日町3-11-1

電話&ファックス：042-330-5355 042-330-5267

調査目的：話し言葉研究のための調査

付録2：同意書

話し言葉の調査  
東京外国語大学  
宇佐美研究室

住所：東京都府中市朝日町3-11-1

電話&ファックス：042-330-5355 042-330-5267

同意書

私は対人コミュニケーション研究のために貴重な資料を収集する東京外国語大学大学院地域文化研究科宇佐美研究室の尽力を考慮して、以下の三項目に関して自分自身が参与した会話の録音とその文字化資料を使用することに同意します。

- (1) 協力者には、宇佐美研究室が永続して所有する収集物の一部分になる前に、データのどの部分であろうと聞いたり、編集したり、撤回したりする権利があります。
- (2) 協力者の名前は文字化資料に記載されず、又、録音や資料から、本人が連想されないように資料化されます。
- (3) 東京外国語大学宇佐美研究室が、話し言葉の研究の発展のために必要であると判断した際には、録音/録画データや文字化資料を研究者、教育者、学生、その他に配布したり、出版物あるいは、その他の形態によって公開したりすることがあります。

署名 \_\_\_\_\_ 日付 \_\_\_\_\_

名前(活字体) \_\_\_\_\_

研究者署名 \_\_\_\_\_ 日付 \_\_\_\_\_

研究者名前(活字体) \_\_\_\_\_